

コロナ禍のもと春闘前進へ

オンライン併用で全道支部・部会代表者会議

1月16日、「全道支部・部会代表者会議」を開いて、2020年秋のとりくみの到達点を確認するとともに、2021年春闘・春の組織拡大月間をはじめとする新しい年のたたかいについて意思統一しました。新型コロナの感染拡大が続いていることから、今回はオンライン併用で開催し、道本部執行部・各業種部会役員をふくめて6支部と北海道鉄道本部から13人が参加しました。

会議では道本部の森国委員長が「コロナ禍で様々な制限があるが、委縮することなくがんばってとりくみを前進させよう。アメリカでは最低賃金を1,560円に引き上げるうごきがあり、賃金引上げこそ危機を打開するカギだが、菅政権・財界は逆行している。生活を守るために春闘をたたかおう」とあいさつし、宮澤書記長が秋の組織拡大・秋年末闘争の到達点、2021年春闘方針案の中心点を報告しました。

討論では、鉄道本部から「JR北海道の3月ダイヤ改正で留萌線の通学列車の減便で高校生の部活への影響がある。高教組などといっしょにたたかいを強めている」、札幌合同支部アルファ分会から「新しい経営者のもとで残業代の支給などで要求を前進させた」などの発言がありました。

函館支部が「健康相談会」

道南の9会場で15人からの相談

函館支部は1月7～9日に道南の9会場（樞法華・恵山・戸井・福島・上ノ国・江差・せたな・森・八雲）で「労災・健康相談会」を開きました。「爆弾低気圧」の影響も心配されましたが、15人の相談者が来ました。相談内容は、アスベスト疾患・1件、じん肺・1件、振動障害・13件、騒音性難聴・6件で、このあと検診希望者11人（うち4人は振動障害と難聴）が医療機関を受診します。相談者の職種は、トンネル坑夫・5人、土工・7人のほか塗装工・杵夫・送電線の鉄塔作業者が各1人でした。この中で「10年ほど前から両手の指先に痺れが強くなるようになり、冷えると指が白くなり痛みと痺れで仕事ができない」と相談に来た73歳の土工の人は、障害をもつ息子さんと2人暮らしで本人の年金がないので今後の生活が不安だということで、検査を早めにやれるようにする予定です。事前の準備は、新聞の折り込みチラシ（約2万3千枚）、医療機関にポスターを掲示して知らせ、開催記事が新聞に載りました。チラシを見て参加した人が8人、組合員の紹介が4人、ダイレクトメールを送った人が3人でした。

昨年7～12月の新規認定77件

道本部労災職業病部会は2020年7～12月の新規認定などのとりくみをまとめました。新規認定数の合計は77件で、内訳は振動障害・42件、じん肺・5件、アスベスト疾患・1件、騒音性難聴・24件、上肢障害・1件、じん肺の遺族補償・4件です。じん肺遺族補償で6件が不支給となっています。また、労災申請などの要求で新たに建交労に加入した組合員は34人です。